

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2023年 12月 8日

事業所名：イーホCラボ

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	・個別療育の場合、パーティションを設けて集中できるような配慮を行っている。集団療育は最大6名を受け入れ可能。座卓エリアを含めゆったりとしたスペースの確保を行っている。	【はい：88% どちらともいえない7% いいえ0% わからない5%】 ・机に座って勉強だけで言えばできているが、自由にボール遊びになるとできていない。	児童や職員が密集した状態にならないように、これまでどおりスペースの確保に留意しながら療育を進める。
	2 職員の適切な配置	配置は、県の基準に適合するよう十分配置している。	【はい：86% どちらともいえない2% いいえ0% わからない12%】	今後も引き続き適正な職員配置を行う。新しく配置された職員は、玄関ボードで掲示を行う。職員の引継ぎについては漏れなく行う。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	空間をパーティションで仕切り、例えば周囲が気になってしまう児童に対しては周囲の音に影響されないように配慮できるよう所内を分割している。	【はい：81% どちらともいえない2% いいえ0% わからない17%】	引き続き、個別療育は保護者の参観期間を設け、所内の様子や活動内容の見学を行ってもらう機会を設ける。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日の清掃の他、児童の入れ替えの際は机や椅子、タブレット等の消毒を行っている。換気等、適宜行っている。	【はい：91% どちらともいえない0% いいえ0% わからない9%】	今後も感染予防の観点から換気や消毒を行っていく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	支援計画を毎回療育前に確認し、支援課題を達成できるようにPDCAサイクルに気を付けている。		PDCAサイクルの浸透、新人研修や職員研修を通じて行っていく。定期的なPSV(ピアサポートセッション)を通じて活動の見直しを行っている。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	実施していない。		
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	行政、民間を問わず研修に参加しており、所内で情報の共有を行っている。また、法人でオンラインを活用した研修機会を設けている。		引き続き研修機会を設け、研修受講の為のシフト調整を積極的に行っていく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	児童への聞き取りや、保護者への聞き取りを行い、利用児童ごとのカンファレンスを入念に行っている。課題に応じた具体的な計画を設定しており、どの職員が見ても対応可能な内容となっている。	1【はい：98% どちらともいえない2% いいえ0% わからない0%】 2【はい：95% どちらともいえない0% いいえ0% わからない5%】 3【はい：91% どちらともいえない0% いいえ0% わからない9%】	計画見直しの漏れがない様に支援計画管理表を作成しており、引き続き管理を行っていく。児童や保護者のニーズを最優先し、事業所本位の計画とならないよう留意していく。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	児童や保護者のニーズに合わせて、例えば月曜17時～の「個別療育＋見るスキル」など、個別療育と集団療育を効果的に組み合わせサービスを提供している。		今後も、個別＋集団療育が効果的と考えられる児童に関しては、ニーズに応じて療育活動の組合せを検討していく。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	独自の脳機能プログラムごとにスキルを設定しており、それぞれに詳細な課題設定を行っている。		職員が交代しても迷わないように、課題の設定についてはこれまでどおり上位項目から下位項目の設定まで詳細に行っていく。

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2023年 12月 8日

事業所名：イーホCラボ

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	定期利用、不定期利用に関わらず、毎回療育前に計画を確認し、課題の設定を行っている。課題実施後は評価を行い、次回の課題設定を行っている。	【はい：91% どちらともいえない0% いいえ0% わからない9%】 ・療育内容には満足である。子どもは楽しみにしているが、キャンセル待ちなので、いつ通所するか分からない。緊張は毎回感じている。仕方のないことだが、キャンセル待ち在籍は月によって通所回数が大きく変わるので、その不安定さがしんどい。通いたいのに通えないつらさがある。	これまでどおり計画に沿った支援を行っている。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	計画立案前に必ず利用児童ごとにカンファレンスを行い、チーム全体で意見を出し合っている。		職員ひとりひとりの資質向上をはかりながら、よりよい計画立案ができるように社内全体で取り組んでいく。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	長期休暇では、「宿題がんばろう会」や「アニマンオン」の特別プログラムを設けており、画一化しないように工夫している。	【はい：86% どちらともいえない2% いいえ0% わからない12%】 ・1回の時間がもう少し長い方が、バタバタせず子どもがリラックスしてプログラムに取り組めると思う	長期休暇はニーズに応じた特別なプログラムを企画していく。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	集団療育(見る、読む、聞くスキル等)は平日カレンダーで2年間の固定プログラムを組んでおり、カリキュラムどおりに進めばスキルアップしていくスケジュールを組んでいる。毎回同じ内容の繰り返しなどはないように組まれている。		プログラムが固定化しないように引き続きカリキュラムの設定を行っていく。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	集団療育前には必ずその日のメイン担当およびサブ担当がどのような流れになるかを確認し、評価方法(このぐらいできたら○とする、など)を確認してから療育に入っている。		引き続きメイン担当、サブ担当の間で打ち合わせが必ず行える環境を意識する。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	所内で活発に意見交換を行っている。評価が良い、もう少し、などに関わらず、次回よりよい課題設定や活動が行えるように職員間で意見交換を行っている。		これまでどおり事後の打ち合わせもしっかり行う。また、問題が生じた時は次回で必ず解消できるように課題解決についても確実にやっていく。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	日誌の記入担当に加え、チェック担当を配置し、記録保存の徹底を行っている。また、療育内容については利用児童一人につき一冊の療育記録ノートを準備し、管理徹底を行っている。		療育記録には個人情報を書き入らないよう留意する(他児の氏名や、本児の氏名など)。また記録は児が課題達成できたことを中心に記録し、支援計画の課題達成に必要な情報を記録していく。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	利用児童ごとに、6カ月に1度の支援計画見直しを行っている。また立案の前には児童や保護者へのモニタリングを必ず行い、職員全体でカンファレンスを行っている。		計画管理表を作成し、計画期限が切れないように作成していく。

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2023年 12月 8日

事業所名：イーホCラボ

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	利用児童の担当、または責任者が担当者会議へ参加し、普段の療育活動のフィードバック等を行っている。	引き続き、積極的に参画していく。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施		
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備		
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	主な対象児童が小学2年～のため、児童発達支援事業所からの移行は実施無し。利用児童の小学校等とは要望に応じて積極的な情報交換、情報共有を行える体制を整えている。	情報交換、情報共有を行える体制を整えておく。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	まだ該当児がいないため、実施なし	
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	専門機関が行う研修等は案内があれば積極的に職員へ参加を促しており、実際に研修に参加している。	今後も研修などがあれば参加し、専門機関からの情報収集を行っていく。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	弊所の療育目的は、他施設との交流を主要なものとしていないため、現在は交流を行っていない。	【はい:26% どちらともいえない12% いいえ24% わからない38%】 ・この情報は全く受けていない。意見を言う場がない。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	現在実施なし。	地域の中で開かれた事業所を目指し、今後交流等検討していきたい。

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2023年 12月 8日

事業所名：イーホCラボ

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	支援の内容については新規面談時、計画の説明とともに必ず行っている。また、利用者負担等の説明は、契約の際に必ず説明している。	【はい：98% どちらともいえない2% いいえ0% わからない0%】	引き続き詳細な説明を行っていく。利用者負担に関して不明な点があれば、法人事務責任者が対応する。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	電話やオンライン等ではなく、対面で、1対1の説明を行っている。不明な点などがないように、質問に適切に応じることができるようにしている。	【はい：98% どちらともいえない2% いいえ0% わからない0%】	今後も丁寧な説明を行っていく。疑問点や、変更点があれば随時対応していく。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	保護者会を開催し、どのような支援内容を行っているか、活動の紹介をしている。今後も引き続き行っていきたい。	【はい：50% どちらともいえない7% いいえ5% わからない38%】	保護者会は引き続き開催していき、家庭でもできる活動内容の紹介を行っていく。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	LINEを通じて気軽に質問して頂けるような環境を整えている。送迎時にご希望に応じて説明できる体制を引き続き整えていく。	【はい：83% どちらともいえない10% いいえ2% わからない5%】 ・月の評価はあるが、タイムリーではない。助言など全くない。報告のみ(1カ月評価の中で)	月一療育報告に加え、日々の悩み事についてはLINE等で応じることができる体制を引き続きとっていく。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	事業所内相談支援や、LINE等での悩み相談を受けられる体制を整えている。	【はい：74% どちらともいえない19% いいえ2% わからない5%】	引き続き相談に関する問い合わせに対応していく。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	保護者会を開催している。また、個別療育は参観期間を設けて、連携支援を行っている。	【はい：40% どちらともいえない16% いいえ14% わからない30%】 ・保護者会はあっても議事録など報告はなし ・近隣の進学先の情報をお聞きしたいので保護者会の集まりを希望する。	保護者会の開催後、どのような会が開かれたか、通信等で配布している。今後も保護者会の開催を行い、より開かれた風通しの良い事業所運営を目指していく。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情対応体制については契約書にも明記しており、即時に対応できる体制を整えている。	【はい：57% どちらともいえない10% いいえ0% わからない33%】 ・経験がまだないため、分からない。	苦情に対しては即時対応できるようにする。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	視覚支援ツールや、児の特性に配慮した環境整備を行っている。	【はい：93% どちらともいえない0% いいえ0% わからない7%】 ・書面のみなので、何か気になることがあればTELLしてほしい。 ・LINEのみ・・・というのが大変困る。仕事状況で常時電話をつかえない。医療機材あり。	情報共有を希望する保護者に対しては順次LINEや電話、対面で共有できる環境を整える。LINEが使えない方には要望に応じて電話対応を行う。

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2023年 12月 8日

事業所名：イーホCラボ

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責任・連携支援 (続明き)	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	LINE配信を通じて行っている。	【はい:48% どちらともいえない2% いいえ5% わからない45%】 ・ホームページ更新などのメールなどをみていない。 ・ラインでお知らせ頂いているので十分だと感じている。 ・グループラインなどで何らかの情報を配信して頂けると嬉しい。	LINE配信やお手紙を通じて活動内容、行事のお知らせを行っていく。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	職員採用時の研修、および週一会議等で周知している。	【はい:88% どちらともいえない0% いいえ2% わからない9%】	引き続き個人情報の遵守を最優先事項として対応していく。個人名が載った書類や、個人情報が記載された書類等の取り扱いに十分留意するよう研修の機会を設けていく。
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	各種マニュアルの整備を行っており、職員へは研修等を通じ周知を行っている。適宜掲示を行っている。	【はい:86% どちらともいえない5% いいえ0% わからない9%】 ・玄関に図面はあるがみえづらい。	引き続きマニュアルの遵守、整備を行っていく。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	R5.12. に避難訓練を実施。火事、地震、不審者、水害に種類分けして訓練を行っている。	【はい:48% どちらともいえない2% いいえ5% わからない45%】 ・報告はうけていない(やったよ、などという)	定期的な訓練の実施、実施の報告を行っていく。職員のみで開催するのではなく、児童の療育中に開催し、防災意識を高めていく。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	虐待委員会を設置、定期的な研修を行っている。虐待とは何か、また通報の義務についての周知徹底を行っている。		虐待委員会にて決められた研修計画の通りに職員研修を行い、虐待に対する意識を高める。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	身体拘束、身体接触については指針を作成し、掲示している。身体拘束は行わない。また、やむをえず身体接触が必要な場合は支援計画に明示し、保護者へ説明を行い、同意を得たうえで行うものとする。		引き続き現状の対策を行う。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	食品の提供は行っていない。		
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハット事例集を蓄積し、週一会議でヒヤリハット事例の共有を行っている。再発防止に向けた職員間での情報共有、防止策の検討等、即時に行うような体制を整えている。		ヒヤリハットに対する意識を高めるため、引き続き週一会議での共有、再発防止策の検討を通じて職員の危機管理意識を高める。